

フジシールグループ

2030年 GHG 排出量削減の
新たな目標を制定

フジシールグループは、脱炭素社会実現に向けた機運の高まりを受け、2023年12月に、取締役会の決議を経て中間目標である2030年度のGHG排出量削減率の目標を制定しました。当社はこれまでにGHG排出量削減に向けて様々な取り組みを行ってまいりましたが、取り組みを更に加速させるべく、パリ協定*¹に基づく温室効果ガスの排出削減目標であるSBTの認定機関であるSBTiに対し、2023年3月にコミットメントレターを提出しています。これより2年以内にSBTの認定取得を目指しています。

【新目標:2030年度 温室効果ガス削減】

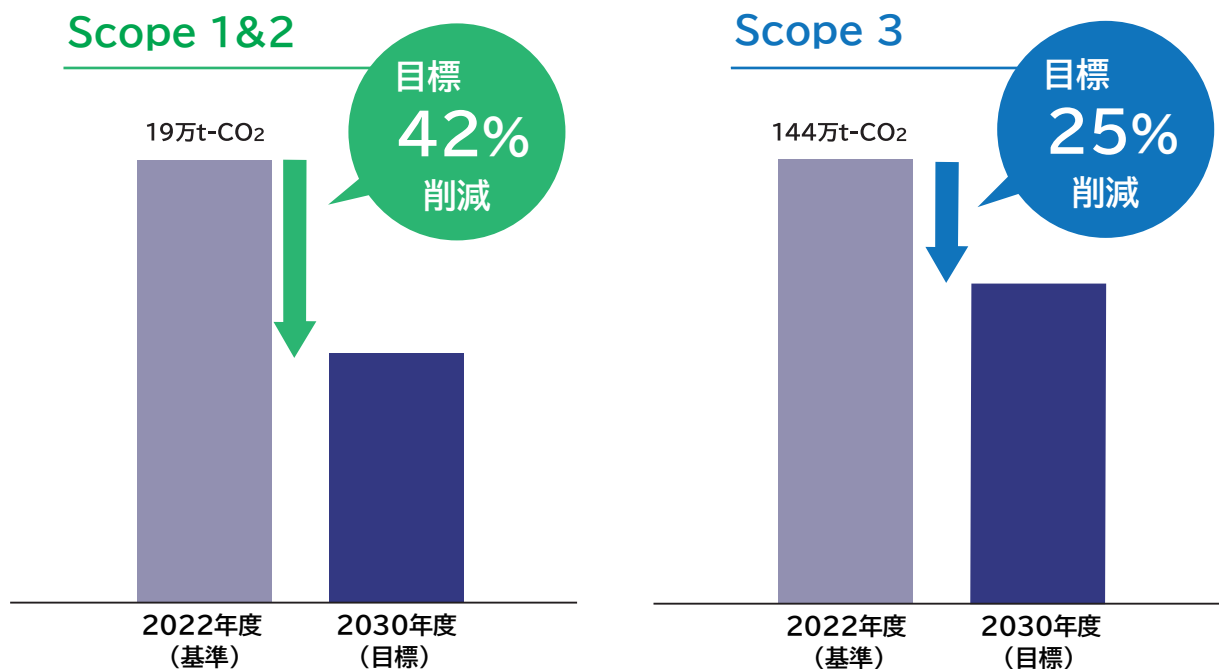
Scope1&2*² : 42%削減(2022年度比)Scope3*³ : 25%削減(2022年度比)

図1: 基準年 GHG 排出量と目標 GHG 排出量

*¹ パリ協定:世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、2°Cより充分低く抑え、1.5°Cに抑える努力を追求することを目的とした国際協定*² Scope1&2: 自社の事業活動における温室効果ガスの直接排出:燃料の燃焼等及び、間接排出:電気、熱・蒸気の使用等*³ Scope3: Scope1&2以外の間接排出

環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 22

フジシールグループ

2030年 GHG 排出量削減の
新たな目標を制定

【新目標に向けた取り組み】

フジシールグループではGHG排出量削減のため、これまでも省エネ活動や再生可能エネルギーの導入を進めてきました(図2 参照)。2024年1月からは新たにドイツ工場・筑波工場での再生可能エネルギー導入も始まり(図2 参照)、新目標の達成に向け、フジシールグループ一丸となり、一層の削減に取り組んでまいります。

また、今回新たに設定した新目標では Scope3 の削減にも着手いたします。自社におけるGHG削減貢献量の拡大を進めるため、従業員、お客様やパートナー企業とともに脱炭素に取り組んでまいります。

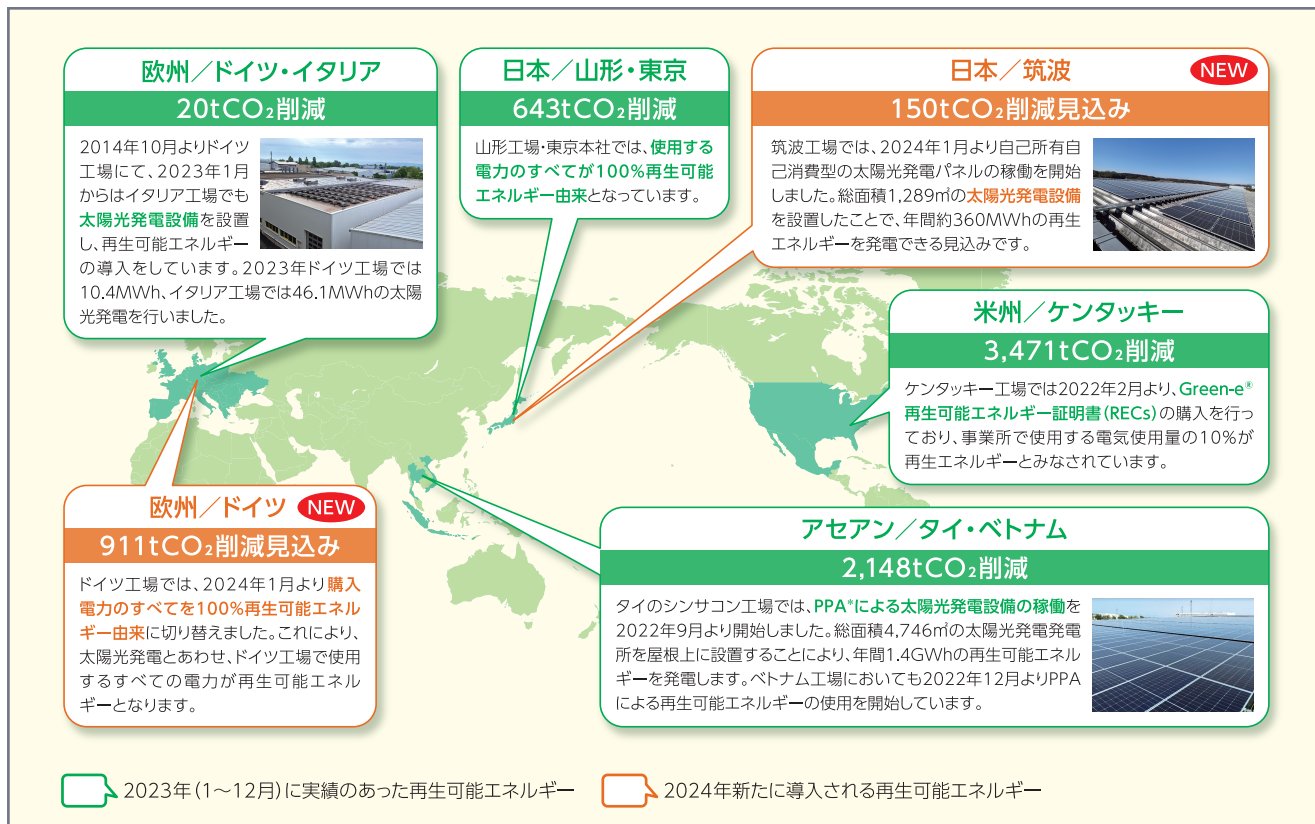


図2: フジシールグループで導入された再生可能エネルギー

* PPAとは、PPA事業者が事業者(電力消費者)の敷地内に太陽光発電設備を無償で設置し、発電した電力を事業者(電力消費者)が購入するビジネスモデルです。PPAモデルを採用することで、事業者(電力消費者)側は設備における初期投資や設備の維持・管理の負担がないというメリットがあります。